

事業所における自己評価結果(公表)

公表:2023年 2月 17日

事業所名 児童発達支援センター 第二こじか園

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点などを踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。	17	3	廊下に絵本の閲覧スペース等を工夫している。	生活年齢でグループ化しているため、年度ではらつきが生じている。
	2 職員の配置数は適切であるか。	17	3	法定の基準値を上回り、園児3名に1人の割合で保育士等を配置している。	子どもの状況に応じた人的配置を積極的に行っている。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか。	16	4	帽子、靴、水筒、着替え等を定位置に収納している。段差はあるが、区切りは分かりやすくなっている。	保育所の跡地で設備等は古い。常に清潔・安全に保ちマンパワーで工夫している。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	20	0	園庭を含め、毎日の清掃を徹底している。指導室は折りたたみ式の机を使用。用途に応じて片付け、活動のための空間を確保している。職員の日々の努力でまかっている。	指導室の扉を開閉時に手を挟まないよう取り替えた。洗面台に給湯した。乾式トイレに改修予定。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	16	2	月に1回の職務会議や職員会議を行い、課題の迅速な解決に向け整理と共有を行っている。	残業の縮減が課題。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	18	0	保護者評価を職員で共有し、業務改善の基礎にした。	30年度から実施を始めた。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容、事業所の会報やホームページ等で公開しているか。	18	1	HP上で、公開している。	評価項目についての理解を深めるため、研修を実施する。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	6		第三者評価は実施していない。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか。	18	1	月に1回研修日を設けている。実践報告を保護者会及び研究会で行ったケース検討会議を発達相談員を招いて年間8回実施した。	新版K式発達検査を実施して、発達課題の検討会を行った。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	18	2	年2回、発達相談を行い「個別支援計画」を作成している。グループでの保護者懇談会、個人懇談会を実施している。	新版K式発達検査を実施。「発達検査結果」を開示し、面談にて丁寧な説明を行っている。
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。	17	0	新版K式発達検査を活用している。	

適切な支援の提供

12	児童発達支援計画・放課後等デイサービス計画には、子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	18	0	発達相談にて具体的な支援内容を協議し、「個別支援計画」を設定している。	地域支援については、課題である。
13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか。	18	0	「個別支援計画」を念頭に療育計画を作成している。	
14	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	19	0	保育部会議を月例化し、目標等を共有化した上で、立案している。	グループ担当者での話し合いをもち、子どもの状況や保育の共通理解をしている。
15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	19	0	年間計画に則り、通年を通じて計画している。	季節、天候に合わせて保育内容をバランスよく取り入れるようにしている。
16	(放課後等デイサービスのみ)			対象外	
17	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか。	18	0	同年齢のグループで着替え、生活、散歩等を行い、リズムや遊び等は異年齢の集団を作っている。	
18	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。	18	1	毎朝行っている。	日誌に基づき、チーム内での細かい打ち合わせを行う。
19	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	20	0	毎日行っている。	職員朝礼の中でも、支援の振り返りを共有している。
20	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	20	0	毎日の記録をとり、週間で整理、検討している。	
21	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか。	20	0	年2回見直しをしている。	
22	(放課後等デイサービスのみ)			対象外	
23	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。	19	0	セルフプランであり、児童発達管理責任者が作成にあたり助言をしている。	日中一時支援事業など相談支援事業所との連携が必要な場面が出てきている。積極的に参加していく。
24	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか。	19	0	常時連携した支援を行っている。	
25	(放課後等デイサービスのみ)			対象外	

関係機関や保護者との連携

26	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)			対象外	
27	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)			対象外	
28	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	19	0	転園を希望する保護者とともに当該の保育所等を訪問し、情報共有を図っている。	
29	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	19	0	就学に向けて、支援学校の訪問日を設けている。就学前年度には、居住地校区の小中学校、特別支援学校を保護者、園児とともに訪問している。	居住地校区の小中学校長等の訪問を受けている。就学先が決定した後、当該の特別支援学校からも園児の様子を見学に来る。
30	(放課後デイサービスのみ)			対象外	
31	(放課後デイサービスのみ)			対象外	
32	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	19	0	障害者保育運動連絡協議会に所属し、他のセンター等とともに職員研修を行っている。	講演会への参加、実践検討会等の研修に参加している。
33	児童発達支援の場合は、保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合は、放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会があるか。	11	8	転園を希望する保護者とともに、転園候補園の見学を行っている。	保護者の交流はあるが、園児の交流は計画していない。
34	自立支援協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	13	4	和歌山市自立支援協議会や乳幼児のワーキング会議に参加し情報の共有と提言をしている。障害児保育連絡会事務局会議に出席している。	管理者等が出席しているが、会の活動報告が停滞しているため、一層の職員への周知を図る必要がある。
35	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	20	0	毎日の連絡ノートでのやりとり、必要に応じて電話など、積極的に行っている。	一層のていねいさをもって共通理解を深めたい。
36	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか。	16	3	発達及び発達保障について、年間10回の「保護者学習会」を実施している。	学習会後の交流会で、年長児保護者が経験談を語り、多いに参考になっている。交流会の回数を増やすことを検討している。
37	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	17	1	事前の見学、入園前の説明会、入園後の説明会の3回にわたって説明し、理解を得ている。	
38	児童発達支援計画・放課後等デイサービス計画を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画・放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	18	1	「個別支援計画」の同意を得て、その写しを保護者に渡している。	
39	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	20	0	毎日の連絡ノートのやりとりで保護者の悩み等に気づき、必要に応じて電話連絡や直接話す機会をつくっている。	年2回の個人懇談を行っている。
40	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか。	19	0	保護者会の活動がしやすいように、配布物や回収物の協力をしている。役員会の場所を提供し、定例会には園長が要請を受け出席している。	

保護者への説明責任等

非常時等の対応	41	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	19	1	毎日の連絡ノートや送迎時に気軽に、申し入れがしやすい雰囲気作りをしている。	
	42	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	19	0	園だよりを月1回発行し、情報を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分注意しているか。	20	0	園のすべての資料の持ち出しを禁じている。	広報等に必要際には、再度承認を得て行っている。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	20	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか。	10	7	地域の方を招待する行事等は実施していない。	子どもたちが、親子でついた餅を年末に地域の人に食べて貰っていたが、昨年から中止した。
	46	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	19	1	非常災害と併せて、それぞれ年1度は実施している。	親子保育時にも行う計画を立てる予定である。
	47	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	20	0	毎月1回の避難訓練を行っている。	マニュアルも含めた訓練内容を保護者に周知する。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	20	0	入園前に健康診断書の提出を求めている。	当該児保護者と綿密な連絡体制を取っている。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	20	0	医師の指示書を必ず提出するようお願いしている。	
	50	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	20	0	文書報告を義務づけている。	軽微なことも申し送り事項として記載し、毎朝、口頭確認を行っている。
51	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	20	0	月1回、職員会議の協議題として取り上げ、時宜に応じた研修を実施している。		
52	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	17	0	送迎バス乗車時にシートベルトを外し立ち歩きがある場合、車椅子用の転落防止保護ベルトの使用を行う旨、保護者に説明している。	身体拘束の事例はない	

○この児童発達支援自己評価表は、当児童発達支援センター職員が、自己評価をしたものです。